

～テロに対する特別な警戒が必要です～

- 1 フランスでは、2015年1月及び11月にパリで、2016年7月にはニース及びルーアン近郊でテロ事件が発生しています(※)。また、2017年7月15日までの間、全土に緊急事態宣言が発出されており、国境管理も強化されています。
- 2 フランスへ渡航・滞在される方は、テロ事件に巻き込まれることのないよう特別な警戒が必要です。具体的には、以下に努めてください。
 - 最新の関連情報の入手に努め、滞在先や個別の訪問先の治安状況や警備体制を確認するなど、不測の事態を想定し、行動する。
 - 不特定多数が集まる場所（公共交通機関、競技場、その他イベント等の会場、観光施設、デパートや市場等）を訪問する場合には、滞在時間を可能な限り短くし、避難経路を確認しておく等の安全対策を必ず講じる。
 - 政府・治安機関には近づかない。
 - 周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、速やかにその場を離れるなど安全確保に努めるとともに、現地当局の指示があればそれに従う。
- 3 その他、詳しくは、スポット情報、広域情報や以下の資料を御参照ください。

安全対策基礎データ

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure.asp?id=170>

テロ・誘拐情勢

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror.asp?id=170>

(※)2015年以降にフランス国内で発生したテロ事件

- 2015年1月、イスラム過激派に影響を受けた男らにより、パリ市内に所在する新聞社が襲撃されて多数が死傷したほか、ユダヤ系スーパーに武装した男が立てこもり、買物客が死傷する事件等が発生。
- 2015年11月、パリ市内の小劇場、レストラン、カフェ等及び北部近郊の国立競技場において、多数が死傷する連続テロ事件が発生。
- 2016年7月、ニースにおいてフランス革命日を祝う花火を見物する客の列にトラックが突入し、多数が死傷する事件や、フランス北部ルーアン市近郊の教会が襲撃され、神父等が死傷する事件が発生。

いずれの事件においても、ISILは犯行声明や「ISILの兵士によって実行された」とのコメントを発出し、フランスに対する更なる攻撃を警告している。